

学び方を学び、他にはたらきかける社会科教育

～表現能力の育成を通して～

大 場 華代子
社会科 小 竹 淳 夫
水 橋 長 之

1. テーマ設定にあたって

本年度から施行された学習指導要領では生徒一人一人の力を伸ばしていくために絶対評価が取り入れられた。今まで以上にきめ細やかに生徒の学習のようすを見、生徒個々人が自らを見つめていける評価を行わなければならない。その際、教師の評価のための評価となるのではなく、生徒が主体的に行った活動をふり返り、次の活動に生かしていくための評価であるべきであろう。その際、教師が評価していくものは生徒の立場に立つと全て「表現活動」と言ってもよいであろう。レポート、発表、資料作成、ノート、ワークシート、パフォーマンス、自己評価、相互評価…などいずれも生徒から見れば、自己の思考を自分なりの形で表現したものである。そこで、社会科では生徒がそれぞれに思考したことを表し、それを教師がサポートし、より多角的な見方が考え方やできるような表現能力を育成していきたいと考える。また、教師が良いと思った作品や考えなどを様々な形で生徒に示していくことで、生徒がより一層、様々な見方や考え方に触れ、自己を高めていけるよう配慮していきたいと考え授業を行っていった。不十分な点が多々あると思うが、諸先生方の授業へのヒントの一つになれば幸いである。

2. 授業実践

《地理的分野》1年生必修の実践から

『世界と日本の地域構成』

(1) 指導にあたって

この項目は、地理として最初に学習する項目である。また、世界の国々や都道府県など地理だけではなく様々な学習の基礎的な知識をしっかりと身につけさせなければならない。

初めの学習から暗記一辺倒では、地理嫌い、社会嫌いになる生徒もいるのではないだろうか。そこで、生徒が国名や国の概要などに興味を持ち、意欲的に学習をすすめていけるような授業を考えてみた。また、生徒の活動が次の学習活動に生かされるよう授業のなかで教師がどのように評価をおこなってゆくかということも考え授業を試みた。

(2) 単元の指導計画

1. 単元名 第1編「世界と日本の地域構成」第1章『世界のすがた』

2. 単元のねらい

地球儀や世界地図を活用しながら、世界の地域構成を地球上の位置関係、水陸の分布、国々の構成などから捉えることができ、自分なりに学習方法を工夫しながら大陸や海洋・州・おもな国々の名称や位置を覚え、世界の略地図を描くことができる。

(3) 単元の評価の観点および規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度

- ① 地球儀や世界地図を活用して、緯度と経度をもとにした地球上の位置関係の捉え方や大陸と海洋の大まかな位置関係、おもな国々の名称と位置、世界の地域区分を意欲的に追究しようとする。
- ② 国当てクイズの問題作りやクイズの解答に意欲的に関わっていける。
- ③ 自己評価を行い、自己の学習のようすについてふり返ることができる。

イ 社会的な思考・判断

- ① 緯度と経度、時差、大陸と海洋の分布、おもな国々の名称と位置などをもとに世界の地域構成を考察することができる。
- ② 社会的事象をもとに客観的なクイズを作成することができる。
- ③ 相互評価の記述の内容が発表者の立場に立ち、多角的な視点で書かれている。

ウ 資料活用の技能・表現

- ① 地球儀や世界地図を活用して、地球上の位置を緯度と経度で表したり、簡単な時差の計算を行える。
- ② 地図帳の索引や統計資料などを活用して、国や都市の位置、面積などを調べられる。
- ③ 大陸の位置関係が大まかに示されている程度の世界の略地図を描くことができる。

エ 社会的事象についての知識・理解

- ① 緯度・経度、時差、大陸と海洋などの用語の意味を理解している。
- ② おもな国々の名称と位置、世界の地域区分に関する知識を身につけている。

(4) 指導にあたって

A 教材観

新指導要領において、社会科では各分野において学習内容が大きく変わった。各分野に共通する主な改訂のねらいは、「激変する社会に対応できる力を身につける」ことである。

従来の社会科では、たくさんの知識を身につけることを中心に学習してきたが、身につけた知識は、変化していく社会とともに「筆箆に眠る古い知識」となってしまうがちであった。

なかでも、地理は日本や世界の現況について学習するものであり、学習の対象は常に変化しており、今日身につけた知識が明日にはもう過去のものとなっていると言っても過言ではない。

そこで、新指導要領では社会科学習の柱として、①生徒に知識を得るための手だてを身につけさせる②世界や日本を細かく学習するのではなく大観させるということが強調されている。

この①、②を柱として学習をすすめていくうえでどうしても必要なのが、国名や地名などの知識であり、また、地図などでそれらの位置を確認するというような技能である。そこで、このような基礎的な知識や技能を身につけるという目的で新設されたのが「世界と日本の地域構成」の単元である。

サッカーのワールドカップで盛り上がっているが、サッカーのルールや、どんな選手がいるのかなどを知らなければ、興味は湧かない。それと同じように、この単元ではまず、社会科を学習するうえでの基礎的な知識や基本的な技能を確実に身につけ、世界の国々や日本について興味をもって学習するための土台としていきたいと思う。

B 生徒観

社会科の基本的な知識や技能については、小学校での学習や個人の興味・関心により大きく差があるようだ。たとえば、緯度・経度については、約半数が小学校の学習で既習しているクラスもあった。そ

ここで、興味や関心が高くない生徒や基礎的な知識や技能がまだ身につけていない生徒が、しっかりと基礎的な知識や技能を身につけられるよう配慮していきたい。

C 指導観

この単元は、生涯学習にも通ずる基礎的な内容を扱う。そこで、知識や技能を確実に身につけていくため、ワークシートや作業を多用し、手を動かし生徒個々人の知識・技能を高めていきたい。また、必ず身につけさせたい学習内容であるため、生徒が興味や関心をもって取り組めるよう配慮したい。

D 評価観

単元の特徴から、この単元では、「社会的事象に関する興味・関心」や「資料活用・表現の能力」などの観点での評価に重点をおきたい。単元を通して、ワークシートの点検による評価と指導を継続して行っている。また、学習活動に対する自己評価や相互評価を適宜行い、教師・級友・自分という3つの立場から学習のあり方を見つめ、個々人の今後の学習への意欲付けとなるようにしていきたい。

(5) 指導計画（総時間数 8時間）	評価項目
第1次 世界の国々を知ろう（1時限）	ア
第2次 世界の地域区分を知ろう（1時限）	イ
第3次 特色のある国を知ろう（1時限）	ア
第4次 国当て WorldCup 開催（4時限…本時その第4次限目）	ア、イ、ウ
第5次 世界地図を描こう（1時限）	イ、ウ
* 単元テスト	エ

(6) 本時の学習（第4次中第4時）

- ① 題材名 国当て WorldCup 開催
- ② ねらい 世界の国に関心を持ち、国名などの知識を広げる。
- ③ 評価の観点及び規準
 - ア 社会的事象への関心・意欲・態度
 - ・自分の学習のようすについて考えることができる。
 - イ 社会的思考・判断
 - ・社会的事象をもとに客観的なクイズを作ることができる。
 - ウ 資料活用・表現の能力
 - ・自分の作ったクイズについてしっかりと出題できる。
 - エ 社会的事象についての知識・理解
 - ・本時は評価しない。

④ 本時の展開

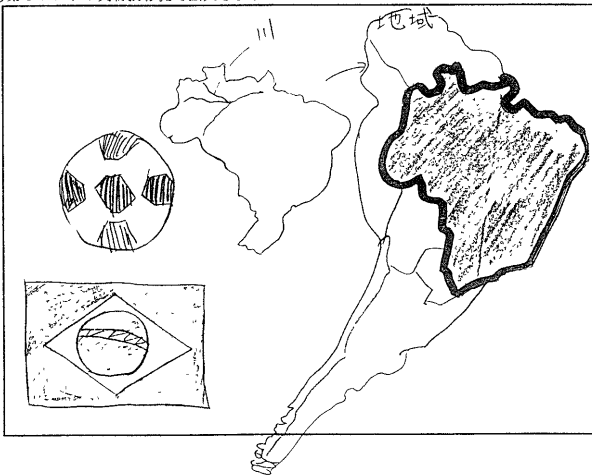
☆教師による評価

学習活動	配慮事項及び評価	時間
<p>1. 前時のふりかえり</p> <p>2. 国当てを WorldCup を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズの出題者は前に出て順に自分の作ったクイズを発表する ・クイズ発表者は、1人3つのヒントを出す ・グループ単位でヒントをもとに国名を考え、解答する ・出題者はクイズにした国と自分や日本とのつながりについて述べる ・クイズの正解を発表する ・一人のクイズが終わるごとに、出てきた国を白地図に書き込む ・すべてのクイズの発表が終わったところでグループごとの合計点を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのクイズ活動の流れを確認する ・楽しく、またけじめある雰囲気で行えるよう確認する <p>☆（観察による〔観点ウ〕） 《前時より継続してクイズ発表者を観察し評価する》</p> <p>A 聞き手がわかりやすいような発表の配慮ができる B 自分のクイズの意図することを聞き手に伝えられる C 発表がわかりにくく、自分のクイズの意図することが伝えられない</p> <p>☆（クイズのヒントの内容による〔観点イ〕） 《前時より継続してクイズ発表者を観察し評価する》</p> <p>A 客観的な社会事象の中から、聞き手が関心を持ちそうなことがらを選びクイズにできた B 客観的な社会的事象からクイズが作れた C 客観的な社会的事象からクイズが作れない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班で話しあいができるようアドバイスする ・第1ヒント5点、第2ヒント3点、第3ヒント1点の解答点とする ・国の位置がわからない生徒には、グループ内で教えあうようアドバイスする ・1～3位のグループに賞を渡す 	<p>5分</p> <p>35分</p>
<p>3. クイズの発表についてのよいところを互いに評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価により、生徒が選んだ優秀クイズを決めることを確認する <p>☆（ワークシートの記述内容〔観点イ〕） 《回収し、授業後、教師により評価する》</p> <p>A 発表の内容・態度などでよかったところを発表者の立場に立ちしっかりと評価できる B 発表の内容・態度でよかったところなどについてコメントできる C 発表の内容・態度などのよかったところについてコメントできない</p>	<p>5分</p>
<p>4. 自己の学習状況をふり振り返り評価する</p> <p>5. 次時の確認</p>	<p>☆（ワークシートの記述〔観点ア〕）</p> <p>A 自己の学習のようすについてふり振り返り、今後の学習につながる記述ができる B 自己の学習のようすについて触れた記述ができる C 自己の学習のようすについて記述できない</p>	<p>5分</p>

〈生徒の作成したクイズ例〉

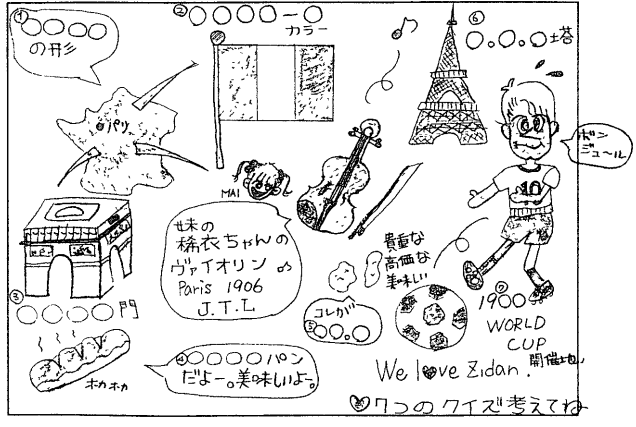
1年()組()番・氏名() 地理 No. 9
 第1章 世界の国々 「国あて WORLD CUP 開催」
 TRY I 「国あて WORLD CUP」のための問題作りにより自主的に取り組もう。
 II 色々な資料をもとにして、みんなが考えクイズとして楽しめる問題を作ろう。

- ①クイズに選んだ国は… **ブラジル**
- ②クイズに選んだ国と自分や日本のつながりは、
日本のちょうど反対の所にある国
- ③第1ヒント
赤道をとおっている南半球側の日本からみて東側にいる国
- ④第2ヒント
世界一長い川がながかみかっている。→ 流域面積が広い？
- ⑤第3ヒント・実物投影機で拡大します



1年()組()番・氏名() 地理 No. 9
 第1章 世界の国々 「国あて WORLD CUP 開催」
 TRY I 「国あて WORLD CUP」のための問題作りにより自主的に取り組もう。
 II 色々な資料をもとにして、みんなが考えクイズとして楽しめる問題を作ろう。

- ①クイズに選んだ国は **フランス(私の家では「おフランス」という)**
- ②クイズに選んだ国と自分や日本のつながりは、
弦楽器とても強いつながりがあります。そして、私の母はバイオリンを弾いていて、その今使用中の楽器が、まさに、フランス製の。昔は、とてもおもしろく、かわいらしかったです。
- ③第1ヒント
ユーラシア大陸です。ヨーロッパ州です。(中心部)
- ④第2ヒント
国旗の色は、青・赤・白の三色です。人口は、約5900万人です。北緯45°に接しています。
- ⑤第3ヒント・実物投影機で拡大します



86 ⑩ 11①②③
 ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

〈生徒の自己評価例〉

1年()組()番・氏名() 地理 No. 9
 第1章 世界の国々

- I 「世界の国々」の自分の学習についてふり返ろう
- 「世界の国々」の学習について、自分の言葉で、自分の学習の反省やこれからの学習の課題などを書きましょう。①～⑥を参考に自分は何について書けばよいかそれぞれ考え書きなさい。この項目以外にふり返りとしてまとめておくとよいことがあればそれも書きなさい。
- ①「国あて WORLD CUP」の調べごととして、教科書の課題、ワークシートなどへの取り組みについて
 - ②「国あて WORLD CUP」の問題づくりについて
 - ③「国あて WORLD CUP」の自分のクイズ発表について
 - ④「国あて WORLD CUP」のグループでの話し合いについて
 - ⑤「国あて WORLD CUP」の他の人のクイズの聴き方について

①みんなが少しでも知っているようなヒントを作って地図もみんなが見てわかりやすいように色をわけて書いて見ました。

② WORLD CUPという事で今年出場していた有名なチームを選んでみました。みんながよく知っている川などを使ったりもしました。

③ 流いき面積が大きい川なのに、いちばん長い川と言ってしまったので、みんなにすこしめいわくをかけてしまったから、これから、まちがえないように気をつけたいです。

④ 自分が「あそび」などと思った国を書いて、班の4人の人とたしかめあって「答えていきました。

⑤ 問題としっかりきいていた時もあるけど、本音は先にやってしまったからきまかしてしまっただけがあった。

⑥ 感想 今まで地理という勉強を初めてして、あまりとくはない。地図も見てはだけ、勉強になって、世界のいろいろな所について、なるとなるほど楽しくなりました。 @3

①「FIFA」と書いてある所をしっかりと理解した上で授業に取り組んだ。

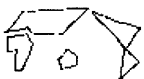
②主に資料集のことを書いた。みんなが分かり易く分からない問題を作った。

③歴史の時は声は大きくな。と感じ。今度二人な発表する機会がまたある。だからなるべく紙を見ないようにして、みんなの顔を見て話したい。

④一生けん命自分なりに考えているけどなかなか分からない問題はありました。でも1問だけ第1ヒントに分かったのがあった。このヒントを解いたのが嬉しかった。

⑤一人一人の問題をちゃんときけたとら。

⑥すごく楽しかった。この行事は問題を考える勉強と、世界の国々の名前と場所を覚えるいい機会だ。と思う。この行事を通して私は、前より国のことをい、はい、知ることができるとも良かった。Very Good!



国あてWORLD CUPとして、いろいろな国名、由来、国旗などが分かりました。反省として、もうちょっと、仕事(プリントを書く)を早く終わらせてきたらよかったと思います。FIFAワールドカップ2002とい、しよに進めた授業はよく楽しかった。です。6大陸をさらに6大州にして、その事も分かった。アジア州の中でもいろいろあるという事も分かった。ので、本当に楽しくできました。そして、授業にも興味れた(のびるのか)ので、ノートまとめもきれいにできました。これからの課題。今までもや、てたけど、授業は楽しく、そしてレポートに取り組みもうと思ひます(さらに)。あとは、後で復習してレポート作りをするという事で、あ、

①け、こうよくてまたんい、ないかと思ひます。②まいぬにでましたし、しんけんにもでました。でも、もうちょっとヒントを工夫できたらよかったと思ひます。③この前の歴史年表の発表をくり返して、大きな声で、明るくできました。

④Cグループは、もう、だれかの音がとてもよく、当た、たり、みんな喜び、はすれたら、みんなて「あーあ」とお互いに

(7) 考察

「国あて WORLD CUP」というゲーム形式での授業に取り組んだのは大きく2つの理由からであった。ひとつは国についての関心を高め、意欲的に国名の学習をおこなえるようにしたいとの考えからである。もうひとつは授業のなかで生徒が主体的・意欲的に活動することで評価できる場面を多く持ちたいと考えたからだ。

授業をおこなって、生徒は「意欲をもって取り組めた」「楽しかった」「またやりたい」「結構国の名前や位置を知った」「いろいろな国があるんだなあ実感した」など非常に意欲的・積極的に学習に取り組めたと感想を寄せている。また、他の生徒の作成したクイズや発表を見ることで、今後の学習での取り組みについて「こうすれば良かった」「次はこうしたい」と自分で指針をしっかりと意識した生徒も多かった。反省点であるが、

・社会科としてのアプローチについて

社会的な見方や考え方を身につけるため、クイズの問題は社会的客観性をもつことから、できるだけ既習の緯度・経度、地域構成などの内容から作るようにした。また、一人一人のクイズに取り上げた国を白地図に記入し、国の位置と国名が結び付くようにした。しかし、もっと国名・位置・特色・既習内容を強く結び付ける展開も考えられたのではないかとすることが課題である。

・評価について

評価については生徒たちには日頃から「きみたちがよりよい取り組みをしていくための手助けである」と話し、授業ごとに「本時に取り組むこと」を示している。それをもとに評価していくわけであるが、教師の評価のための評価になりがちであったことである。良い作品、良い考え方、などをもっとさまざまな方法で生徒に示していくことで、次の取り組みへの生徒の自己内評価がすすむのではないかと思う。今後は、教師や生徒間の評価を効果的に生徒に返してゆく取り組みをすすめてみたい。

・時間について

生徒一人一人の活動を見つめていくためには、目標にあった活動がおこなわれるが、そのためには大変多くの時間が必要となる。明確で具体的な評価計画を持ち、大切な時間を無駄にしないような授業を今後も考えていかなければ…と強く思った。

《歴史的分野》2年生必修の実践から

『近現代の日本と世界 ～明治維新～』

(1) 指導にあたって

学習指導要領の内容の取り扱いによると、この中項目は、明治維新の経緯のあらましを理解させ、新政府の諸改革によって近代国家の基礎が整えられたことに気づかせるとともに、これが人々の生活にもたらした大きな変化について考えさせるのがねらいである。「明治維新の経緯のあらまし」については、天皇中心の新政府の成立から明治10年ごろまでの、政治の動きのあらましや諸改革の扱い、短期間に近代国家に基礎が整えられていったことに気づかせる。「新政府の諸改革」については、我が国が近代国家となるために行った「廃藩置県、学制、兵制、税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定」に重点を置いて扱う。これらの諸改革や文明開化がもたらした「人々の生活の大きな変化」については例えば江戸時代との比較などから考えさせるようにする、となっている。

これにより、この中項目での基礎・基本事項を①新政府の成立から明治10年までの政治のあらましや諸改革(廃藩置県、学制、兵制、税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定)②諸改革や文明開化による人々の生活の大きな変化と定め、指導計画を作成し、評価の場面を設定した。

(2) 指導(評価)計画と授業の流れ

第1時 年表づくりから

大政奉還(1867)から明治10年までの年表をつくろう

評価規準 明治維新のあらましに興味をもち、年表をつくっている。 (関心・意欲・態度)

評価基準 B・・・年表をつくっている

C・・・つukらない

《観察による評価》

- ・年表をノートに書く(あまり細かな内容は書かないようにする)
- ・10人を指名し、各年ごとのできごとを黒板に書いてもらい、全員で確認する。
- ・五箇条の御誓文、5枚の立て札から新政府の基本方針を確認する。
- ・年表の中から「新政府の諸改革」にあたるものをピックアップする。
 1. 版籍奉還
 2. 廃藩置県
 3. 身分解放令
 4. 学制
 5. 徴兵令
 6. 地租改正条例
- ・この6つの事項の内容を次の時間までにノートに調べてまとめてくる。

(注意) 必ず教科書を読んでから調べ始めること。

1つの事項について100字程度に要約すること。

自分のことばでかいてくること。(用語辞典は写さない)

※領土の画定については、第6時に扱うことにした。

第2時 新政府の6つの改革

明治新政府の諸改革を調べてみよう。

評価規準 明治新政府の諸改革の概要を概要を調べている。 (関心・意欲・態度)

評価基準 B・・・ノートに調べてある。

C・・・調べてない。

- ・ノートの点検(できている生徒にはノートにスタンプを押す) 《ノートチェックによる評価》

- ・ 1つの事項ごと生徒を指名し、発表させる。
- ・ 6つの改革のあらましが理解できているか確認する。
ノートを閉じさせて、発表させる。

6つの改革のあらましをすべていえるようになる。(基礎・基本の定着)

評価規準 明治政府の諸改革の概要を理解している。(知識・理解)

評価基準 教師が6つの改革のうち任意の2～3事項を指定し、それについて説明する。

B・・・概要がいえる。

C・・・いえない。

- ・ 合格した生徒は、6つの改革から興味のある1つを選択し、B4用紙1枚にまとめる。
- ・ 口頭で説明したものより詳しくまとめる。

第3・4時 レポートづくり

明治政府の改革をしらべよう

注意) 必ずグラフや表などをいれること

文章ばかりにならないようにイラストなどをいれること

評価規準 明治政府の改革についてのレポートを作成している。(関心・意欲・態度)

評価基準 B・・・作成している。

C・・・作成していない。

《観察による評価》

レポート提出

評価規準 明治政府の改革のレポートをグラフや表を利用してわかりやすく表現している。

(資料活用の技能・表現)

評価基準 A・・・グラフ・表・図などが効果的に用いられてわかりやすく表現されている。

B・・・グラフ・表・図などがあまり有効に利用されていない。

C・・・提出されていない。

第5時 ともだちのレポートを観てみよう

- ・ 6つの改革から1つずつ優秀レポートを選び、プリントし、全員に配布する
- ・ プリントを用いて、それぞれ簡単に内容を確認していく。(基礎・基本の定着)
- ・ ともだちのレポートのよいところを発表しあおう。(生徒による相互評価)

第6時 日本の領土画定と殖産興業

- ・ 白地図を用いて樺太・千島列島、小笠原諸島、琉球など領土を確認していく
- ・ 中国・朝鮮・ロシアなどとの外交のようすを調べ、発表する。
- ・ 殖産興業政策をあげてみよう。

貨幣制度，官営模範工場，交通・通信の整備，郵便制度

- ・明治時代（文明開化期）に日本にはいつてきたもので現代の我々の生活に深く根付いているものを家からもってこよう。

明治時代にはいつてきたものであるということを証明できる文献・インターネットなどによる史料をいっしょにそえること

第7時 文明開化による生活の変化

文明開化の時期に日本に入ってきたものを家から持ってこよう。

評価規準 文明開化期にはいつてきたものを家から持ってきている。 (関心・意欲・態度)

評価基準 A・・・家庭から証明できる資料とともにもってきている。

B・・・ものだけ持ってきている。

C・・・もってきていない。 《ノートチェックによる評価》

- ・もってきた生徒にはノートにスタンプを押す。証拠の文献などもそろっている場合は3つスタンプを押す。

- ・もってきたものを発表する。

小さいものや史料は実物投影機で映し出す。

もってきたもの全種類が発表されるようにする。

評価規準 家からもってきたものをみんなにわかりやすく紹介している。(資料活用能力・表現)

評価基準 A・・・文献資料からの説明もふくまれ、わかりやすい。

B・・・わかりやすく説明している。

- ・文明開化期にはいつてきたものが人々の生活に大きな変化をもたらし、現代の日本人の生活と深くかかわっていることに気づかせる。

単元テスト

- ・20分間でこの中項目でどれだけ意図した力がつきたかを見るテストである。

時間が短いので、単元全体を網羅するような問題はなかなか出題しにくい。

今回は基礎・基本と位置づけた事項の中で、全員が一律に取り組んだ第2時の新政府の6つの改革にしぼり、以下のような単元テストを作成した。

6月 単元テスト 社会科

年号	明治政府の政策等
1868	五箇条の御誓文
1869	版籍奉還
1871	廃藩置県
	身分解放令
1872	学制発布
1873	徴兵令
	地租改正条例

明治政府は、日本を近代国家にするため、改革をすすめた。上の年表中のA～Eの改革について関連

のある下にあらわされたタイトルの中から1つ選び、指定された5つの語句をすべてつかって、200字以上で説明しなさい。

《注意1 完成したら説明文中に使用した指定語句を色ペンで囲むこと。色ペンは消しゴムで消えないので最後に囲んだ方がよい》

《注意2 必ずしも授業中に選択したものでなくてもよい》

タイトル	5つの指定語句
A 版籍奉還から廃藩置県へ	知藩事 府知事・県令 土地と人民 3府 中央集権
B 明治の身分制度改革	四民平等 身分解放令 士族 平民 えた・ひにん
C 学制とは	小学校 授業料 約25000 一揆 男女すべて
D 徴兵令とは	免除 約18% 一揆 兵役 男子
E 地租改正条例とは	地券 地価 2.5% 一揆 安定

再テスト

6月単元テストで基準に満たなかった生徒（評価 C）は、基礎基本を定着させるため、再テストとした。問題は生徒一人一人に単元テストのA～Eのいずれか1つを指定し、その場で文章を書きこませて判断して合格すれば、評価をBにあげた。

(3) 実践後の感想と考察

この中項目は、基礎・基本事項をしっかりと絞り込み、明治初期の歴史的な流れを大切にし、教師側からは細かい事項は意図的にふれないようにして、この時期をダイジェスト版的にとらえられるように構成してみた。そんな中で6つの改革のうち、自分が興味のあるものを詳しく調べ、レポートもとりいれてみた。

また、評価する場面も意識的に多くとりいれるようにしてみた。特に、全員一斉に授業中に評価する場面を考えた。①6つの改革のあらましを理解し、自分のことばで説明する場面と②文明開化期の日本にはいつてきたものを家庭から証拠の文献などとももってくる場面である。

①は授業の流れを生徒に告げたとき、「無理だ」という反応がかえってきたが、全員集中して取り組み、10分後からどんどんチャレンジしてきた。合格した生徒は、教室内で友達を助け、ほとんどのクラスで1時間の授業内で全員が合格できた。口頭説明の可否のポイントは、どれだけ自分のことばで説明しているか、説明に使用した言葉に不明瞭なところはないかということである。あらましの説明であることから、本当に定着した知識であるかどうかを判断したかった。この方法は1時間に全員の生徒の説明を聞くことができ、それを一律の基準で評価することができた。何度もチャレンジしなくてはいけない生徒には、アドバイスをあたえることもできた。その反面ただの暗記ではないかという思いもあったが、定着させたい基礎・基本事項であるとわりきり取り組んでみた。全員クリアしたので、「明治初期の政治改革のあらましを説明することができる」という評価規準は全員に基準Bを与え、単元テストで基準Aをみることにした。

②も予想以上にたくさんの生徒がいろんな本やインターネットでの検索により、いろんなものを家庭からもってきた。1時間内にもってきた物に対して1つ1つ評価をしていくのはとても時間がかかるので、

どんな物でも家庭からもってきた生徒にはスタンプ1つを押し、明治時代の物であるという証拠をそろえてきた生徒にはスタンプを3つ押した。このスタンプを社会的事象に対する関心・意欲の評価の基準とした。この評価方法は、授業中に1人ずつ名簿につけていく時間を省くことができ、全員を評価した後に授業を展開することができ、この時間の中でさらにもってきたものを発表する活動の評価することができた。マッチ・キャラメル・石鹸・ラケット・野球・帽子など様々な実物が集まり、授業としても盛り上がった。

この中項目の取り組みを通して、基礎・基本事項を絞り込みその定着に時間をとり、その他のところは簡単に押さえるというメリハリをつけることと評価の場面をあらかじめ生徒に知らせ、授業中に一斉に同じ基準で評価する方法を2つとレポートによる評価をやってみた。今回よかったところは、評価する方もされる方もあまり負担がかからなかったところであると思う。日常の授業で何度も評価をしていくためには、教師側も生徒側も負担にならないことが大切であり、継続させていく重要なポイントである。特設的な評価の場面設定も必要であろうがそれが授業の構成や流れを不自然なものにしていっては、評価のための授業となり、生徒の意欲も継続していかないであろう。自然な流れの中に評価の場面をうまくとり入れていく工夫が必要になってくると思う。今回はあまり取り組めなかったが、相互評価を行うことにより、自分の発表を振り返り、他のよいものと比較してより向上していくように思われる。

《公民的分野》3年生必修の実践から

『人権と共生社会』

(1) 指導にあたって

この中項目においては、基本的人権の尊重について、教科書や資料集にみられる事例を通して、人権尊重の考え方の基礎を養うとともに、具体的な事例を考えることによって、身近な課題として人権尊重をとらえることをめざした。

基本的人権の尊重の学習では、さまざまな事例をもとに、日常生活のあらゆる場面において、自分たちの生活と関わりを持っていることを学ぶ事ができる。しかし、いかに多くの事例を挙げたところで、事例だけでは、本当の意味での学習がなされるのか、という心配が残る。そこで、生徒がそれぞれ思考したことを表現し、より深く考えることによって人権と共生社会のあり方について学びとって欲しいと考え授業を試みた。

(2) 単元の指導計画

1. 単元名 第2章「人間の尊重と日本国憲法」第3節『人権と共生社会』

2. 単元のねらい

- ・ 部落差別や民族差別、女性や障害のある人たちなどに対する差別の状況について知り、その解決に向けて何が行われているかについて考え、一人ひとりを大切にし、ともに生きていける社会を実現するためにすすんでかかわっていこうとすることができる。
- ・ 自由権や社会権、社会の発展にともなう新しい人権問題にはどのようなものがあるか、具体的な事例を通して理解し、自分なりの考えを事例として表現することによって現代の人権問題について考えることができる。

(3) 単元の評価の観点および規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度

- ① 我が国のさまざまな差別問題や人権の尊重について意欲的に考えようとしている。
- ② 身近な事例をもとにした人権クイズの問題作りやクイズ大会に積極的に関わろうとしている。
- ③ 自己評価を行い、自己の人権学習の様子を振り返ることができる。

イ 社会的な思考・判断

- ① 今日の我が国のさまざまな差別の実態について理解し、その解決方法について考えようとしている。
- ② 個人の自由・権利と社会的な責任・義務との関係や社会の発展にともなう新しい人権問題について多面的・多角的に考察したクイズを作成することができる。

ウ 資料活用の技能・表現

- ① 新聞記事などで身の回りにある基本的人権に関する問題を見つけ、クイズに活用することができる。

エ 社会的事象についての知識・理解

- ① 基本的人権の尊重について、身近な生活との関わりから理解している。
- ② 個人の自由・権利と社会的な責任・義務との関係について正しく認識し、その知識を身につけている。

(4) 指導にあたって

A 教材観

新指導要領において、公民的分野では目標として、(1)「個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」、(2)「…個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。」と書かれている。さらに、公民的分野における改善の具体的事項として「国民主権や国民生活と福祉など政治や経済等に関する基礎的・基本的内容を具体的事例を通して…」と述べられており、本単元においてこそ具体的事例を通して、個人と社会の関わりを理解させることが大切であると考えた。

多感な成長期にある中学生にとって、「自由・権利」という言葉はとても魅力的なものとなっており、ともすれば一方的な言葉として受け止めてしまいがちであろう。また、個人と社会との関わりも家庭生活や学校生活といった狭い範囲の中でとらえられているようである。そのため、本単元では、新聞記事など具体的事例を通して、人権の尊重を身近な事としてとらえさせると同時に、自由・権利と責任・義務の関係を考え、個人と社会との関わりに発展させていきたいと思う。

B 生徒観

日頃、新聞やニュースを興味深く見て、社会の動きに大きく関心を抱いている生徒とそうでない生徒との差が激しく、公民的分野は地理的分野や歴史的分野に比べて興味・関心の差が大きいようである。そこで、より身近な問題としてとらえ、日々の生活と大きく関わっていることとして基礎的・基本的な知識や技能を身につけられるように配慮していきたいと思う。

C 指導観

この単元は、公民的分野において民主主義に関する理解を深めるための土台ともなる単元である。そのため、しっかりと身につけさせたい学習内容であり、生徒が興味・関心を持って取り組めるよう、表

現活動としてクイズ形式を取り入れ、楽しみながら、より深く考察できるよう配慮したいと考える。

D 評価観

単元を通じた学習活動における自己評価やクイズの作成時における相互評価によって学習への意欲付けをはかりたい。また、この単元全体での評価は「社会的な思考・判断」や「資料活用の技能・表現」の観点に重点をおきたい。

(5) 指導計画（総時間数 9時間）		評価項目
1次	ともに生きる（2時限）	ア、イ
2次	自由に生きる（1時限）	ア
3次	豊かに生きる（1時限）	ア
4次	人権保障を確かなものに（1時限）	ア
5次	新しい人権と国際社会（1時限）	ア、イ
6次	人権クイズ（3時限…本時はその第3時限目）	ア、イ、ウ
* 単元テスト		エ

(6) 本時の学習（第6次中第3時）

① 題材名 人権クイズ大会

② ねらい さまざまな人権について発表し、人権についての考えを深める。

③ 評価の観点および規準

ア 社会的事象への興味・関心・態度

・グループでの話し合いなどクイズ大会に積極的に関わろうとしている。

イ 社会的な思考・判断

・社会的事象をもとに多面的・多角的に考察したクイズを作成することができる。

ウ 資料活用の技能・表現

・身近な事例をもとにわかりやすくクイズを発表することができる。

エ 社会的事象についての知識・理解

・本時は評価しない

④ 本時の活動

学習活動	教師の働きかけおよび評価（☆）	時間
1. 本時の活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動の流れを確認をする ・前時までのグループ得点を確認する 	3分
2. クイズ大会をする ・各グループの代表が順番にクイズを出題する	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に続き19人に発表させる ・1人につき、1分30秒の持ち時間を確認する ・グループごとに相談し、代表者に解答を書かせて提示させる ・毎回グループ得点を確認し、意欲付けとする <p>☆（観察による〔観点ウ〕） 前時より継続してクイズ発表者を観察し評価する A 出題の意図ををわかりやすく、表現豊かに伝えることができる B 出題の意図を伝えることができる C 出題の意図をうまく伝えることができない</p>	40分

学習活動	教師の働きかけおよび評価 (☆)	時間
<p>・ 一問ごとに相談しグループで解答する</p> <p>・ 出題者はクイズの正解を発表する</p> <p>3. まとめと自己評価</p> <p>・ 自己評価する</p>	<p>☆ (観察による [観点ア]) 前時より継続してクイズ解答者を観察し評価する A 積極的にグループでの話し合いに参加し、クイズ大会に関わることができる B グループでの話し合いに参加できる C グループでの話し合いに参加できない</p> <p>☆ (ワークシートによる [観点イ]) 授業後、ワークシートの内容で評価する A 社会的事象を多面的・多角的にとらえたクイズを作成できる B 社会的事象にもとづいたクイズを作成できる C 社会的事象にもとづいたクイズを作成できない</p> <p>・ 自己評価表に記入させ、学習をふりかえさせる</p> <p>☆ (ワークシートによる [観点ア]) 授業後、ワークシートの内容で評価する A 学習を振り返り、今後の課題など発展的な記述ができる B 学習を振り返った記述ができる C 学習を振り返った記述ができない</p>	7分

(7) 考察

基本的人権について、生徒自ら考え、表現することをめざして、クイズ形式をとることとした。クイズ形式の場合、どのようなものがよいのか考えると同時に、興味を持った事例に深くふれることができるであろうと考えた。

生徒が考えたクイズ例として、

「自分が新しくメールのアドレスを変えたので、友人のA子さんに教えたのですが、ある日メルアドを教えていない友人B子さんからメールがきました。どうも友人A子さんに教えたそうです。この時、失われた人権を何というか。」

「自宅の近くに工場ができました。煙をどんどん出すので、洗濯物を干せないし、外にも出られません。この時、どんな人権が侵害されているのでしょうか。」

「Aさんは学級会の時間、学級目標を決めるために、ある発言をしました。しかし、Bさん達仲のいい子達が何人かでAさんの意見を猛反対しました。あまりにもそれがひどかったので、Aさんは落ち込んでしまいました。Aさんは何という人権を侵害されたのでしょうか？」

「Aさんは、あるホームページで書き込みをしたことがありました。それから何ヶ月か後、何と、そのホームページにAさんの住所や電話番号が載っていたのです。Aさんは、そのホームページの管理人を訴えることにしました。その根拠となった人権はなんですか。」

などが見られた。

生徒のクイズ例に見られるように、身近な出来事から、基本的人権の尊重について考察することができたと思う。また、インターネットや電子メールに関する人権クイズなど生徒の日常生活に深くかかわった事象が取り上げられた例が多く、近年の特徴である情報社会の進展にともなう、新しい人権の広まりも感じられた。

また、グループを構成し、個人の考えだけでなく、グループでの話し合いを通しての出題としたため、クイズ作成時に相互評価が行われ、よりよい出題内容（身近な題材をもとに社会的事象を客観的にとらえたもの）となったようである。

日頃より基本的人権の学習において、例えば、自由権の学習において、自己中心的な自由・権利だけをとらえてしまうなど、ともすれば全体を見失いがちとなり、社会的な責任・義務にどの程度まで到達できるのかという不安を感じていた。しかし、グループでの話し合いをさせることにより、良い刺激となった相互評価を受けながら、社会的な思考・判断へとつながっていったようである。

今回の学習では、基本的人権のあり方を机上のものではなく、実際の生活にかかわるものであることを感じ取らせるための方法として考えたのだが、身近な例から全体へと広げるまとめの重要性を改めて感じさせられ、個人と社会との関係を今後学習の中でさらに発展させていくことが必要であると痛感した。